海外学会報告

第 16 回　欧州モビリティ・マネジメント会議

16th ECOMM 2012 (European Conference on Mobility Management)

萩原　剛*　剣持　健**

By Go HAGIHARA and Takeshi KENMOCHI

1．はじめに

欧州では、1990 年代からモビリティ・マネジメント（MM: Mobility Management）と呼ばれる交通施策が広範に実施されている。我が国でも、2000 年頃に実験的な取組が行われて以来、急速に MM の取組が実施されてきている[1)]。

本稿では、2012 年 6 月にドイツ・フランクフルトで開催された第 16 回欧州モビリティ・マネジメント会議（ECOMM: European Conference on Mobility Management）の概要等を報告する。

2．欧州におけるMMの動向:EPOMMとECOMM

(1) MM のプラットフォーム：EPOMM

欧州モビリティ・マネジメント・プラットフォーム（EPOMM: European Platform on Mobility Management）[2)] は、欧州各国でモビリティ・マネジメントに取り組む国々で構成される非営利組織である。2015 年 4 月現在、オーストリア、ベルギー、フィンランド、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、ノルウェー、ポルトガル、スウェーデン、英国の 11 ヶ国が加盟国として中心的な役割を担っており、他の欧州各国とともに活動を行っている。

EPOMM は、各国に対しウェブサイトやワークショップ、ニューズレター等を通して技術や情報の提供・共有を行うと共に、交通手段分担率の都市間比較（TEMS）や MM の施策評価（MaxEva）等、オンラインで利用可能な各種ツールを提供している。また、後に示す「取組事例の移転・拡散（Policy Transfer)」を行っている。

メンバー各国には、相談窓口となる拠点（NFP: National Focal Points）が設置されており、当該国の取組のサポートや共有化、情報交換等を通して取組の質のレベルアップを目指している。

(2) MM に関する会議：ECOMM

ECOMM は欧州における MM に関する情報交換を目的として年に 1 回開催される会議であり、EPOMM における主要な活動の一つである。1997 年のアムステルダム会議に始まり、2015 年のユトレヒト会議まで 19 回の会議が開催されており、欧州各国から 300 ～ 400 名の実務家や専門家が集まっている[3)]。

2008 年から 2012 年までの発表事例を概括すると、自転車の利用促進事例や職場を対象とした MM、キャンペーンやイベント事例等、多様な事例が報告されている（表－ 1 参照）。

表－1　近年の ECOMM（2008-2012）の主なトピック

施策・キーワード	事例数
自転車	27
職場対象	23
キャンペーン・イベント	21
MM の評価	18
ICT による情報提供	17
モビリティセンター、コーディネーターの教育	16
電話・インターネットの活用	14
学校での教育	13
駐車マネジメント	13
カーシェアリング	11
学校対象	11
マーケティング手法による情報提供	10
個人向けのアドバイス	10

※ 2008 ～ 2012 年会議までの口頭発表のうち、英語以外の言語による発表等、資料のみからでは発表内容を読み取ることが出来なかった発表を除いた 169 事例を対象。複数カウントを含む

※「施策・キーワード」は EPOMM の MM 説明文書[4)] で「MM 施策」として採り上げられているものを列挙した。

＊道路・経済社会研究室　研究員　博士（工学）　＊＊道路・経済社会研究室　研究員　博士（社会経済）

3．第16回ECOMM（フランクフルト）

(1) 概要

第16回ECOMMは、「MM: 欧州発展の鍵となる要　素（Mobility Management- Key Factor for European Development）」をメインテーマに開催され、下記の７つのサブトピックが設定された。

・電気モビリティ
・地域要素とMM
・欧州プロジェクトにおける「連携」から得られた知見
・意識とライフスタイル
・社会人口構造変化への挑戦（移住者、高齢者）
・都市再生とMM
・ドイツにおけるMM

写真－１　キーノートスピーチ

(2) 特徴的なトピック

ａ）特徴的な発表

第16回ECOMMでは、欧州ならではと言えるトピックが多く見られたが、その多くは日本におけるMMにも大いに参考になるものであった。

例えば、「移住者と持続可能なモビリティ」セッションでは、欧州各国の人口構成において無視できない割合を占める「移住者」の交通行動や、「ゆくゆくはクルマに乗りたい」という将来の意向について紹介された。また、「欧州のプロジェクト」セッションでは、地方自治体のMMを支援する取組が紹介され、成功のコツとして「関係主体を巻き込む」ことや「ステークホルダーがつくるアクションプランの存在」などが紹介された。「意識とライフスタイル」セッションでは、冬期通勤時の自転車利用促進プロジェクトが紹介され、利用促進のためのグッズやプロジェクトの評価手法が紹介された。

ｂ）“Pecha Kucha”セッション

第16回ECOMMではワークショップ（6件）を含め80件の発表があったが、そのうちスライドを用いる伝統的な口頭発表は29件で、過半数の45件は「Pecha Kucha（ペチャクチャ）」と呼ばれる発表方式により行われた。ペチャクチャは、20枚のスライドを20秒毎に自動的に切り替えながら口頭で説明する発表形式で、どんな発表でも「必ず400秒（6分20秒）で終わる」点や、印象的な写真やイラスト、単語で構成される「詰め込みすぎない」スライドが印象的であった。

ｃ）取組事例の移転・拡散（Policy Transfer）

第16回ECOMMでは取組事例の移転・拡散が主要なトピックの一つとなり、この年より優良な移転・拡散事例が表彰されることとなった。これは、他国の好事例を移転対象国や都市の事情に合わせてテイラーメードでサポートする取組であり、欧州全体のMMを底上げする目的の取組と言える。

4．おわりに

当研究所では我が国におけるMMの普及・拡大を目指す観点から、「モビリティ・マネジメント技術講習会」を公益事業として2008年より開催している。また、一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）の諸活動について、法人会員として参画している。本稿で示したような欧州の事例にも学びつつ、上述のような活動を通して、我が国のMMの発展に貢献に今後も協力して参りたい。

参考文献

1）土木学会土木計画学研究委員会・市民生活行動研究小委員会：市民生活行動学，土木学会，2015.
2）EPOMM, http://epomm.eu/
3）ECOMM - The European Conference on Mobility Management, http://epomm.eu/index.php?id=2632
4）EPOMM: Mobility Management: a Definition, http://epomm.eu/docs/mmtools/MMDefinition/MMDefinition_english.doc